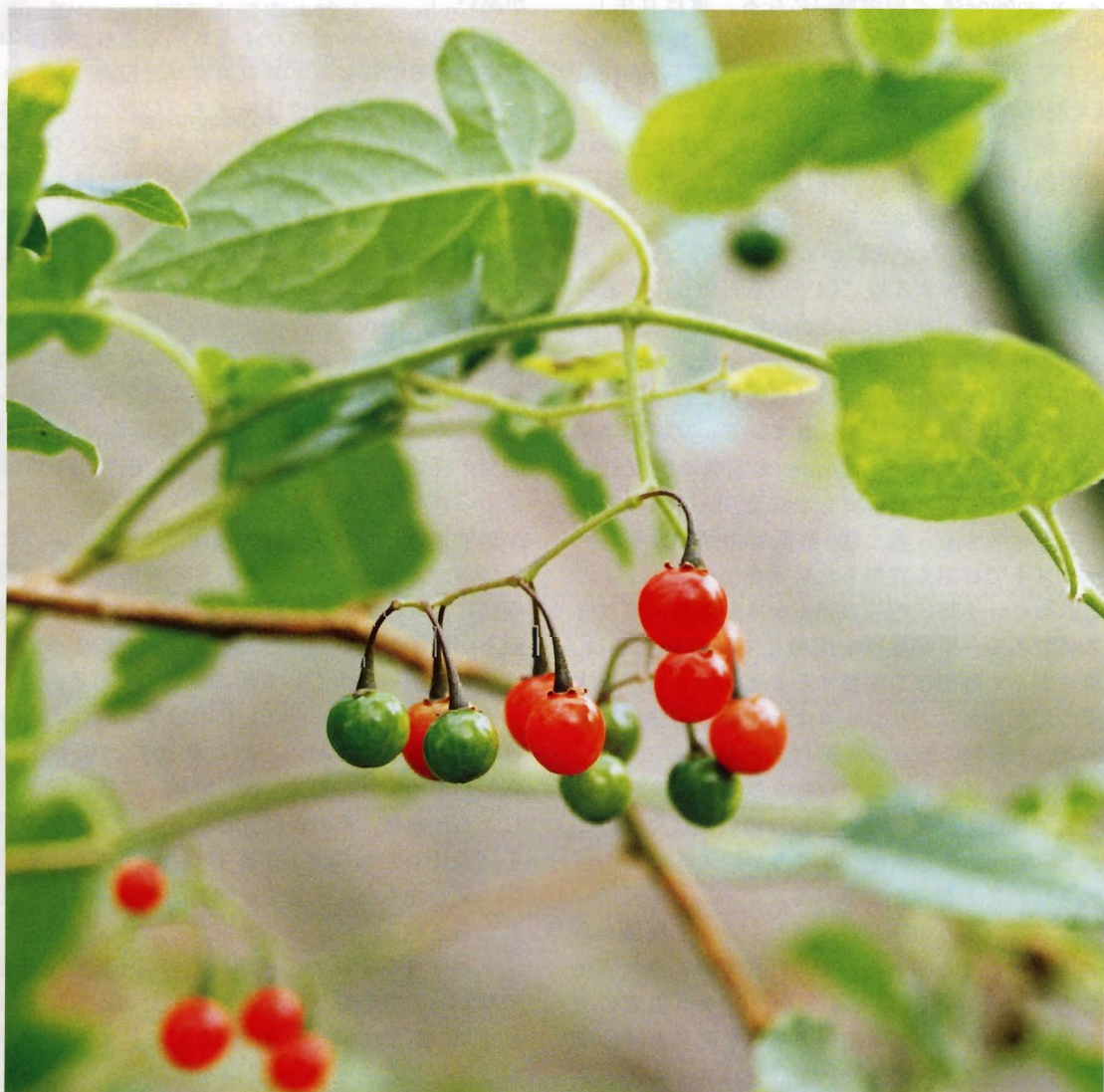


大阪薬科大学報

31

1994年（平成6年）12月10日発行

大阪薬科大学広報委員会



薬用植物（表紙写真）の紹介

ヒヨドリジョウゴ *Solanum lyrantum* Thunb. (ナス科)

ナス科ナス属の多年草で、東アジアの熱帯から温帯にかけて分布する。低い山地や原野に多い植物で、前年の古い茎から新しい枝を出し、葉柄で他のものに絡みつきながら10mにも達する。茎、葉、葉柄に柔らかい毛が密生しており、同属植物のヤマホロシ *S. japonese* との識別点になる。葉は互生し、茎の先端の葉は切れ込みのない卵形で、先は尖る。茎の下部の葉は2～3片に裂け、種小名 *lyrantum* (頭大羽状の) の由来になっている。

夏に葉と対生に花枝を出し、先が二股状に分かれ数個の白い花を付ける。開花した花はすべて結実し、熟すると紅色の液果になる。ヒヨドリがこの果実を好み、大声をあげながら群がって食べる。酒上戸達が酒の席で大騒ぎする様に似ているというのであろう。ヒヨドリジョウゴとはうまい名前である。

一部の地方ではこの植物をツツラッコソウと呼ぶ。ツツラッコ (ツツラゴ) は带状疱疹のことで、それに効く草という意味が込められている。宮城県の北部ではイヌホウズキ *S. nigrum* が同様に呼ばれている。紅色に成熟した果実を水洗後、瓶に詰めて保存すると融解する。または、酢漬けで保存する。イヌホウズキでは黒く成熟した果実を使う。

これらの汁を带状疱疹の痛くかゆい患部に塗り付けるのである。果実漬けを用意していないときは、茎葉を刻んで酢漬けを調製することができる。带状疱疹の患部にヒヨドリジョウゴ汁を塗る方法は効果があり、一昔前の地方の医師は実際に使っていた。民間でも広く使われており、薬草の使用体験を語る会などではよく話題になる。独特の強烈な臭いのこと、1～2回塗ると痛さやかゆみが消えること、痕が残らないことなどが語られる。

ツツラッコソウの内服を試みたいとある医師から相談を受けたことがある。その時次ぎのように答えたことを覚えている。「ヒヨドリジョウゴ由来の生薬を白英、イヌホウズキ由来のそれを竜葵と呼んで解熱、鎮痛薬にされてきた。主成分はステロイド系アルカロイドサポニンで、外用で炎症を抑えるが、

内服使用には問題がある。まず、急性の胃腸障害と催奇性が心配である。催奇性ではアメリカの牧場主を悩ました一方の目が大きい猿面子羊やアフリカでの脊髄分離児と無脳症児が有名である。新生子羊の30%にも達した猿面子羊は受精成立後14日目に雌羊が食べたベラトルム *Veratrum californicum* (ユリ科) の、脊髄分離児などは傷ついたジャガイモ *Solanum tuberosum* のステロイド系アルカロイドが原因であった。ヒヨドリジョウゴのアルカロイドに催奇性毒性があるかどうかは分かっていないが、この種のアルカロイドにはトリカブト毒に類似の毒性を示すものもあり、ツツラッコソウ内服は危険性が高い。」

带状疱疹はヘルペスウイルス病であり、疱疹の炎症を鎮めるのにヒヨドリジョウゴは役立つ。しかし、ウイルスの害を防ぐにはビタミンC剤の投与や体力回復のための手当てが求められた。類似のウイルス病もあり、ヘルペス脳炎など重症の場合は入院加療が不可欠である。疱疹が目のできる角膜ヘルペス症で失明した例や角膜移植が行われた例も見聞きしたところである。

その後抗ヘルペスウイルス剤のアシクロビルが開発され、眼軟膏による角膜ヘルペス症の治療に効果をあげた。内服剤もあるが、臨床例を見聞きするまでもなく、その核酸塩基誘導体の構造、作用機構、開発の経緯などから考えれば、重い副作用の覚悟が求められる薬である。

アシクロビルが切り開いた領域に参入しようとしたのが、ソリブジンである。その時に従来型の带状疱疹に、あらたに5FUなどの抗癌剤による免疫力低下が原因の带状疱疹が加わっていたのである。ソリブジン薬禍はかくして起こったのである。

薬禍災害の折に、自立した治療学を思う。内科学、外科学、薬理学などの一部にされている治療学が、病気毎の治療法の歴史、国、地域、民族、学派などによる治療法、その根拠、治癒率、予後などの情報を体系化したものである。多くの人たちがその治療学に関心をもち、患者や家族も治療法の選択に加わられたらと思う。

ヒヨドリジョウゴの実が紅色になっていくのを眺めながら、恩恵をうけた患者がいたことも知らないままに、新薬に飛びつき、起こしてしまったソリブジン薬禍のことを思った。

(写真・文 教授 草野源次郎)

目 次

薬用植物（表紙写真）の紹介	草 野 源次郎
創立90周年を迎えて	理 事 長 大 村 栄之助… 2
大阪薬科大学のルーツを顧みて	学 長 久保田 晴 寿… 3
創立90周年記念式典及び祝賀会举行	森 本 史 郎… 4
第 1 回市民講座を終えて	森 本 史 郎… 5
第12回公開教育講座を終えて	掛 見 正 郎… 6
文部省科学研究費補助金採択状況	7
報告 第10回国際エイズ会議に出席して	保 坂 康 弘… 8
平成 5 年度法人決算報告	事務局長 河 野 光 次… 11
就職状況中間報告	就職部長 稲 森 善 彦… 12
第29回大薬祭をふり返って	学生部長 森 逸 男… 14
関西薬連・全薬大会結果報告	16
保健室だより	17
研究室だより 第 2 生薬学教室	馬 場 きみ江… 18
第 1 物理化学教室	第 1 … 土 井 光 暢… 19
大阪薬科大学における今からの薬学教育	玄 番 宗 一… 20
教務課だより	24
大学院薬学研究科の主な研究分野	25
学生課だより	26
庶務課だより	27
図書館だより	27
各部・委員会・委員一覧	28
随想 西除川	保 坂 康 弘… 30
後期行事予定	33



創立90周年を迎えて

理事長 大村 栄之助

大阪薬科大学は、明治37年大阪道修薬学校として創設されてから、本年は創立90周年を迎えることになりました。

創立20周年を迎えた大正14年に女子薬学専門学校に昇格、その10月に帝国女子薬学専門学校と校名を改め、爾來わが国の女子薬学教育の中心的役割を果たしてまいりました。昭和24年男女共学の帝国薬学専門学校となり、昭和25年学校教育法第4条により大阪薬科大学の設置が認可され、次いで昭和50年大学院修士課程、昭和59年には大学院博士課程の設立が認可され、名実共に日本における代表的な私立薬科大学として認められています。

本学はわが国で4番目に古い伝統のある私立薬科大学として、今日までに、14,000名を超える有為な人材を世に送り出し、卒業生は薬業界をはじめ広く産業界、学界、官界で活躍しています。

このたび、本学の発展にご尽力していただいた多くの方々への感謝を込めて、大阪薬科大学創立90周年記念式典と祝賀会を、多くの来賓の方々のご臨席を得て、平成6年10月7日、都ホテル大阪において開催いたしました。あらためて、本学の歴史の重みを実感し、今後一層の発展のための努力を、心に銘じた次第です。

時あたかも、薬学をとりまく社会情勢は極めて目まぐるしい変革のときを迎えています。高齢者人口の増加に対応して医療に対する考え方も変わり、それにつれて、平成4年医療法が改正され、医療の担い手としての薬剤師への期待も高まり、その立場も明確化されてきました。医療の場において、期待される薬剤師とはどんなものだろうか、医師のもっていない、薬をめぐる基礎知識をもち、医療の担い手として必要な医学的、生物学的な知識を高めると共に、医療現場での実習経験をもつ必要があります。単に薬の専門家であるだけでなく、医療人としての高い識見をもって、医師と対等に会話できること

が必要です。

薬剤師の国家試験も、平成8年度から、従来の試験項目に医療薬学の分野の試験項目が大巾に増やされることになっています。薬剤師を養成する任務をもつ薬科大学はそれに対応し、新しい医療薬学への教育研究態勢を早急に確立する必要があります。

薬科大学の卒業生にとって、病院、薬局で働く薬剤師の任務は重要であることは論を待ちませんが、日本の薬学の伝統とも言える創薬、製薬の場での仕事も重要な分野といえます。

従来、薬科大学で教育している基礎薬学は、化学、生物学を中心とした、広義のバイオサイエンスといえます。薬科大学で勉強する諸君は、今後、医療、医薬品関連の研究、生産、販売ならびに、環境衛生問題など広くバイオ産業界、官庁などでも積極的に活躍して欲しいと思います。諸君の先輩は、現に医療にかかわる薬剤師としてばかりでなく、研究者、技術者として立派に広い分野で活躍しています。

薬学教育、研究も従来と同じパターンでなく、科学の進歩、社会の変化をみつけ、新しく改変していく必要があります。今こそ、薬学関係者は、薬学の将来像を真剣に考える必要があると思います。

本学は、これらの大きな問題の上に、長年の懸案である、キャンパスの高槻市への移転問題があります。現在、学内では建設委員長栗原教授を中心に着々と計画が進められ、本年末着工、平成8年4月開校を期して諸般の準備が進められています。環境、施設も全く新しくなった、新天地で、新生大阪薬科大学の活躍を、皆さんと共に期待したいと思います。創立90周年にあたる本年は、正しく移転事業スタートの年としても意義ある年としたいと思います。大学の移転は大事業です。大阪薬科大学関係者全員一致団結して、希望にみちた創学100周年に向かって力強く邁進したいと思います。

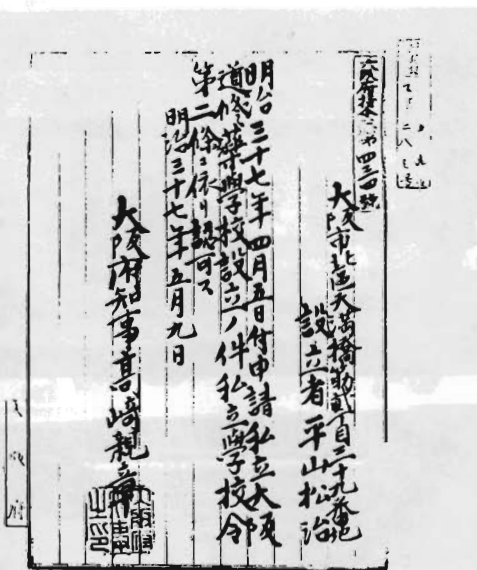


大阪薬科大学のルーツを顧みて

学 長 久 保 田 晴 寿

創立90周年を迎えるにあたり、本学の創始の時代を顧みて、本学がめざす方向を定めたい。

私立大学では、創設者が掲げた「建学の精神」が高らかに謳いあげられている場合が多い。本学では、従来これが明白に示されていない。大阪薬科大学のルーツは私立大阪薬学校（旧大阪薬専）にあった薬学演習会の夜間部が発展してできた大阪道修薬学校で、創設者は平山松治先生である。



平山先生は慶応2年（1866）8月20日、岐阜県大垣市に生まれ、明治23年（1890）東京帝国大学医科大学薬学科を卒業され、大阪衛生試験所に技師として勤務された。明治34年（1901）には、日本薬剤師会大阪支部の設立に伴い、初代支部長に就任されたが、当時の薬剤師数は全国で3,112人であり、大阪府では、わずかに189人であった。

大正2年（1913）には、当時極めて珍しかった薬学博士の学位を取得された。大正4年、政府は前年に起こった第一次世界大戦の影響を受けて、輸入の

止まった医薬品の自給化を促すために、東京、大阪の両衛生試験所に臨時製薬部を設けた。

明治37年（1904）本学創設後まもなく、大阪衛生試験所長に昇任された平山先生は、技術員を指導してクロラル、クロロホルム、ザロール、クエン酸、サントニン、ブローム塩類等の医薬品の製造研究を行った。このように平山先生は当時、大阪を代表する薬学者であり、薬剤師であった。

この平山先生は、大阪薬学校の講師であった東大薬学科卒業の大島太郎先生を校長に迎え、衛生試験所の部下の技手であった秋山卓爾先生を教務担当者として、明治37年5月9日に大阪府知事の認可を得て、道修薬学校を発足させた。日露戦争の始まった年である。

先生は私財を投じて、当初道修町の塩野義本社ビルの地にあった寄り合い所を借り、薬種問屋の徒弟のために夜学の薬学塾を開いたわけである。最初の卒業生は数人だから、畳敷きの部屋に少数の若者を相手に、数人の若い先輩の薬剤師が、後輩の教育に情熱を燃やしたのである。翌年から昼間は女子に門戸を開き、薬剤師や薬学技術者の養成をめざした。当時平山先生は38歳であり、大島先生は37歳、秋山先生も31歳の若さであった。

平山先生は、大正9年（1920）わが国最初の官立薬専として設置された富山薬学専門学校の校長に大正10年請われて就任し、大阪を去られた。先生の在任中、道修薬学校は道修町から南久太郎町、東高津、阿倍野へと校舎を移転し、苦難の歴史を重ねたが、男女合わせて約900名の薬剤師を養成した。この中には、地域社会や薬業界に貢献した多くの有為な人材が、多数含まれていることは確かであろう。

このような創学の歴史から、本学の建学の精神は「人間の健康と生活を守る薬剤師、薬学技術者の養成、社会人教育による社会への貢献」にあったと理解したい。

創立90周年記念式典及び祝賀会举行



本学創立90周年記念式典と祝賀会は、去る10月7日（金）午前11時より、都ホテル大阪で約350名の来賓を迎えて盛大に行われた。大学からは教職員総出で午前9時30分頃より会場に参集、それぞれの部署に分かれて準備万端来賓をお迎えした。

午前11時、“大和の間”で開かれた記念式典で、大村理事長は本学創立以来の歩みを回顧し、本学の発展にご尽力いただいた諸先輩の努力に対して深甚なる謝意を述べた。さらに、本年を本学の高槻市への移転事業スタートの年とし、大学関係者は英知を結集して創立100周年に向けて邁進する決意を述べた。続いて、久保田学長は大学の現状を説明するとともに、今後は薬学教育の改革と大学院教育の拡大に加えて、公開講座を通じて社会に開かれた個性的な魅力あふれる大学をめざしていくと所信を披露した。来賓祝辞を、文部大臣与謝野馨氏、大阪府知事 中川和雄氏、日本私立大学協会会長橘高重義氏、日本薬学会会頭金岡祐一氏、日本薬剤師会会長吉矢佑氏の方々から頂戴した後、関西大学理事長上田繁潔氏ほか多数の方々からの祝電が披露された。続いて、法人功労者並びに永年勤続者に対して、それぞれ表彰状の贈呈があり、正午に記念式典は終了した。

会場を“浪速の間”に移動し、12時20分より祝賀会が盛大に行われた。大村理事長の挨拶に続いて、日本私立薬科大学協会会長日下晃氏、大阪薬科大学同窓会会長梶川益美氏から祝辞をいただいた。続いて、本学コーラス部の指導者当間修一先生の特別の

ご厚意により、大阪ハイソング・シュツ合唱団の参加を得、同先生指揮の下に演奏された曲目は参加者を魅了して絶賛を浴び、祝賀会に花を添えてもらった。アトラクション終了後、本学元理事長石黒武雄氏の発声で乾杯が行われた。飾られた広い会場は、官庁、大学、企業、病院などからの招待者に本学関係者を交えた参加者でうめ尽され、楽しい雰囲気満ち溢れた。久方ぶりに駆けつけた同窓生は、クラスやクラブごとに人垣をつくりながら、90周年の味をそれぞれに深く噛みしめていた。

2時間近くにわたる祝賀会も、あっという間に過ぎ、午後2時すぎ森本理事の挨拶で閉会となった。



なお、当日大阪薬科大学90年小史が、小史編集委員会（加藤義春助教授・馬場きみ江助教授）より刊行された。

（記念式典委員会実行委員長 理事 森本史郎）



第1回市民講座を終えて

市民講座委員会委員長

教授 森 本 史 郎

間もなく迎える高齢化社会に向けて、人の健康や生命、医療や福祉のあり方に対する価値観が、生活の質の向上とともに大きく変わろうとしている。こうした社会的指向に沿った一般社会の要請に応えるために、本学は医療の一翼を担う立場から、一般の市民の方々に正しく薬学や医薬品を理解していただく講演会を企画していた。今年は本学創立90周年を迎える年にあたり、これを記念して大阪薬科大学第1回市民講座を去る6月11日（土）に松原市文化会館において開催した。



当日は天候に恵まれ、また、委員会のPR活動に加えて、事前に本市民講座の開催がNHKや新聞に報じられたこともあり、地元松原市だけでなく、大阪府下の広範な地区、奈良県下からも約400名の方々が参加された。年齢も19歳から90歳と幅広い世代の方々であった。

午後1時30分に開講し、久保田学長は本学の沿革と本市民講座の開催主旨を参加者に説明された。今回は「健康とくすり」をテーマとし、老化に伴う成人病とその予防という観点から下記の先生に講演をお願いした。

1. 午後1時40分～午後2時50分

「カルシウムと塩分と病気——今からすこやかな老後のために」

大阪薬科大学第2薬理学教授 玄番 宗一

2. 午後3時10分～午後4時40分

「ホルモンと老化」

大阪医科大学第一内科教授 大澤 仲昭

講演後の質問を聞きながら、医療機関における患者の病状や治療薬についての説明不足を感じている方が多いように思われた。午後4時30分、森本委員長の閉会の挨拶で市民講座は終了した。

一方、別室に「くすりの相談コーナー」を開設し、午後0時30分から午後4時50分まで、本学同窓生を中心とした病院勤務薬剤師と開局薬剤師の方々に市民の方々の相談に応じていただいたが、本コーナーも非常に好評であった。時間帯によっては、19名の薬剤師では対応できないほど盛況であった。相談内容で最も多かった事項は、薬物の副作用と長期連用であった。

本市民講座開催にあたり、本学同窓会、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、松原市薬剤師会は共催に加わっていただき、大阪府、松原市からは後援をいただいたことに対して厚くお礼申し上げます。最後に、本市民講座の企画、運営にご支援、ご協力いただいた委員会の皆様に厚くお礼申し上げます。

なお、本市民講座は、今後も継続して開催を予定しています。



第12回公開教育講座

を終えて

公開教育講座委員会委員長

教授 掛 見 正 郎

第12回公開教育講座は、第10回、第11回に引き続きまして「新しい医療とこれからの薬剤師(3)」というテーマで、10月15、22、29日の3日間、本学34教室で開催されました。本年は財団法人日本薬剤師研修センターの単位制度が正式に発足したのちの最初の公開教育講座に当たり、また例年の「大阪府薬剤師会生涯教育の単位」に加え、今回から新たに大阪府病院薬剤師会、京都府病院薬剤師会の生涯教育の単位としても認められるようになりました。このため、委員会としても、当初から例年よりも多い参加申込があるものと予想しておりました。しかし、日程・プログラム編成を終え広報活動に入った直後から、予想を遥かに超えるお申込み、お問い合わせが全国各地から殺到し、本学の公開教育講座への関心の高さとその重要性を改めて認識直した次第です。今回の登録受講者数は3日間で延べ774名にのぼり、座席数の関係からこれはほぼ満席で、結果的には多数の方々のお申込みをお断りすることになりました。お手際をここに深くお詫び申し上げます。

近年、わが国の薬学教育、ならびに薬剤師教育をめぐって、その教育科目の見直し、修業年限の延長、大学院のあり方などを含めて様々な論議が行われております。御承知の通り大阪薬科大学におきましても、これら卒前教育の改革は当然行うべきものとして進めてきておりますが、一方卒後教育も同様に重要であると考えております。公開教育講座は、大学院と共に、本学の卒後教育の根幹をなすものですので、大切に育ててゆかなければなりません。このような状況から、本年の公開教育講座は、例年の方針に加え、将来の薬学／薬剤師教育の方向性を探る意味で、日本病院薬剤師会の高橋則行先生と、昭和薬科大学の田代眞一先生をお招きし、それぞれ「ファーマシューティカルケアの確立に向けて」、「医療薬学の現状とその将来」について御講演戴きました。これらを含め今回の公開教育講座は、最終日に行ったアンケートを見る限りでは好評で、おおむね成功裡に終了したと思っております。当日、座長としてあ

るいは広報活動その他でご協力を戴きました本学教職員、ならびに会場で裏方として支えていただきました大学院生、4年次生の方々に深く感謝いたします。

ここ数年間、本講座への参加者は年々増加しており、このままでは座席数の問題で、来年度の学内開催は困難であると思われます。これをどのように対処すべきか、たとえば、公開教育講座を年複数回の開催をするか、学外の会場を確保するか、本年のように先着順で申込みを打ち切るか、種々御意見を伺いたく存じます。本学は平成8年春には高槻市への全面移転も控えており、この松原の地で開催されるのは来年度が最後になると思われます。この公開教育講座が新しい地で、より発展させるためには、皆様方の御協力が今まで以上に必要であると考えております。より一層の御鞭撻をお願い申し上げます。



第 12 回 公開教育講座プログラム

新しい医療とこれからの薬剤師 (3)

10月15日(土)	13:10~13:20 13:20~15:00 15:00~15:30 15:30~17:10	第12回公開教育講座開講の挨拶 「ファーマシューティカルケアの確立に向けて」 休 憩 「漢方医学における病気治療の考え方」	大阪薬科大学長 久保田 晴寿 日本薬剤師会副会長 日本病院薬剤師会専務理事 高橋 則行 近畿大学教授 東洋医学研究所 阿部 博子
10月22日(土)	13:10~13:20 13:20~15:00 15:00~15:30 15:30~17:10	「日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度について」 「新しい製剤(DDS)の医療における役割」 休 憩 「医療薬学の現状とその将来」	大阪府薬剤師会 大阪薬科大学助教授 薬剤学 森本 一洋 昭和薬科大学教授 病態科学 田代 眞一
10月29日(土)	13:20~15:00 15:00~15:30 15:30~17:10 17:10~17:20	「高脂血症と動脈硬化 ―その病態に基づく治療―」 休 憩 「心身症と心身医学 ―心療内科医からみた病気―」 「閉講の挨拶」	京都大学医学部教授 老年医学 北 徹 関西医科大学教授 第一内科学 中井 吉英 大阪薬科大学教授・公開教育講座委員長 掛見 正郎



平成 6 年度文部省科学研究費補助金採択状況

研究代表者	研究種目	研 究 課 題	配分額(千円)
教 授 千熊 正彦	重点領域	希土類キレートを標識剤とする生体成分および薬物のイムノアッセイに関する研究	2,500
教 授 石田 寿昌	一 般 B	立体構造解析に基づくカテプシンL選択特異的阻害剤の分子設計	3,400
教 授 掛見 正郎	一般C(継続)	生体恒常系の日内変動を考慮した薬物投与計画設定法の検討	500
助教授 辻坊 裕	一般C(継続)	海洋細菌 <i>Alteromonas</i> sp. 0-7 株のキチン分解酵素に関する研究	500
教 授 池田 潔	一般C(継続)	ホスホリパーゼ A ₂ の触媒機構と阻害剤による阻害機構の解明	800
助教授 黒田 和道	一 般 C	ウイルス感染細胞におけるクラスI抗原提示機構の研究 ―エピトープを決定する機構の解析―	1,400
教 授 森本 史郎	一 般 C	エンドセリンの代謝調節に関与する酵素の生化学的、組織化学的解析	1,900
教 授 栗原 拓史	一 般 C	特異的抗ウイルス活性を持つカルブユーディストミン類の合成と生理活性に関する研究	1,300
助教授 松村 靖夫	一般C(時限)	血小板並びに TGF-β1 によるエンドセリン1産生促進作用とその病態生理学的意義	1,900
助 手 大石 宏文	奨 励 A	DNA と薬物の相互作用に関するX線構造化学、および構造活性相関研究	1,000
助教授 土井 光暢	奨 励 A	グラミジジンSの会合状態と細胞膜への作用機構 ―両親媒性化合物との相互作用―	900
助 手 佐久間 覚	奨 励 A	脂質由来生理活性物質産生の調節における活性酸素の役割に関する研究	900
助 手 藤井 忍	奨 励 A	スフィンゴミエリナーゼの触媒機構とリン脂質分解酵素のリン脂質による活性調節	1,000
助 手 浦田 秀仁	奨 励 A	ヌクレアーゼ耐性を有する新規アンチセンスヌクレオチドの分子設計	1,000

第10回国際エイズ会議に出席して

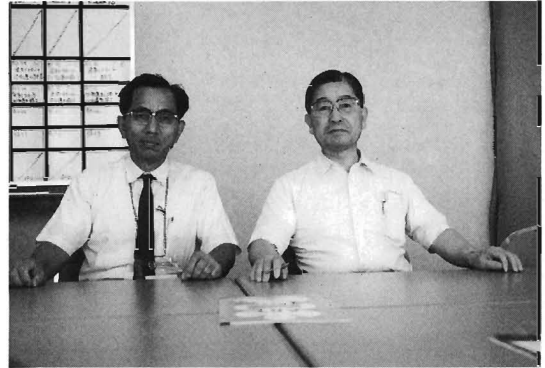
第2 微生物学教授 保 坂 康 弘

1. 緒論

平成6年8月7～12日まで、横浜で標記の国際会議が開催された。正規の登録者数は、130ヶ国以上に渡り11,400人。会議後半になって、関心のある市民の non-academic の展示ブースへの参加が正規の登録なしで認められた——この部分の参加者数はつかめないし本主題とは関係ない。総予算13億円、会議当日までに12億円が確保されたという。本会議は、アジアでは初めての開催で、最近のインド・タイなどでの急速なエイズの広がりからして、タイムリーな企画といえる。次回の会議は、カナダのバンクーバーで2年後に開催される。

会議場は、パシフィコココハマ、巨大な国際会議を一堂に集めてできる日本では唯一の国際会議場といってもよいのではないか。全体講演 (plenary session) 演題数32, 10周年記念講演題数10題以上、特別最近報告演題数や evening session 演題数が、それぞれ10題以上 (以上すべて総会会議場で行われた)、通常演題数 (口頭発表582, ポスター2760) という目を剥くような数、いづれも質の高い論文が目白押しという状況であった。毎日新聞, Japan Times, Asahi Evening News, Mainichi Daily News 等は、本会議の記念特集版を、それぞれ出版した。

このようなマンモス学会では、ホテルの確保が難しくなるが、日本人参加者のかなりの数は、東京に宿をとっていた。小生は会議の2週間前に予約したが、大船にあるホテルしか見出せなかった。通勤に1時間15分を要し、8時半からの plenary session



本会議プログラム委員長, 北村 敬 博士 (予研, 現富山県衛研所長) と筆者 (左)

にはホテル朝食を食べると間に合わない。

2. 学術的成果

今回の国際会議では、エイズ伝播阻止や治療に向けて確実な進歩がみられた。会議の組織の仕方などにも工夫がみられた。継続して、本国際会議に出席してきた人の話では、従来エイズ活動家、売春婦などの騒々しい参加があり academic session でも academic な雰囲気確保されにくかった。今回はよく組織されて、ふさわしい雰囲気の中で学術討論ができたという。会議組織者の真摯な努力が、まづ第一の原因であるが、日本の事情、——エイズ患者数が極めて少なく、治安もよく清潔な街並み等環境条件もよかったことなども寄与していたことと思われる。

またHIVの発見をめぐる論争にも結着が付き、モンタニエ博士 (仏) が起因ウイルス (HIV) の第一発見者であることが確立した後での国際会議で



熱心に聴く会議参加者（8月8日夕）

● あった。この問題に関する無用の hot discussions は過去のものとなった。当事者の一人、ギャロ博士がヒトレトロウイルス（HTLV）の発見者であり、HIV研究の重要な推進者であることも周知の事実であるので、両者を招いて10周年記念講演を行ったのも、よい企画であった。各論の分野でも印象に残った学術発表が少なくない。

(1) エイズの病態解明

Fauci 博士（米国）は、multiphasic で multifactorial なエイズ疾患の進行を次のように画いた。HIVウイルスの侵入とともに、ウイルスの体内伝播——ウイルス血症がおこる。この間にウイルスはリンパ組織に侵入する。ここではウイルスは、まづ濾胞状樹状細胞にとり込まれる。感染初期に一部の患者はCD8陽性T細胞 $V\beta$ サブセットの増大をみる。一般にこのタイプの応答のある患者の経過は比較的よい。一方異常な免疫活性化やサイトカイン分泌増加がみられた時は、病状に悪い影響を与えることが多い。感染後11年たっても発病しない non-progressor と呼ばれる人々は、ウイルス産生量（体内の）も低く、リンパ組織も正常構造を維持している。

(2) HIV新種

● 従来知られているのはHIV-I型とHIV-II型である。最近発見されたものの中に、従来の検査法では検出不能であるがエイズ様症状を呈するもの

がありHIV-O型と名づけられた。アフリカのカメルーンで陽性者の1%，その他の地域では更に低頻度であるという。輸血用血液の安全性が問題になる程の広がりには至っていないということである。

(3) 遺伝子治療や抗エイズ薬剤併用療法

Wong Stal 博士（米国）の計画は、リボザイムの遺伝子を、体外へ持ち出した患者血液細胞の中に入れ、再び体内に戻してHIV感染細胞と共存させ、ウイルスRNAを分解させようとするもので、動物実験をクリアーし、今年中に臨床試験をはじめようというもの。Gallo（米国）博士らは、HIV-tat 遺伝子の存在下でのみ発現する自己制御的な anti-tat 遺伝子を開発した。これをレトロウイルスベクターに挿入してT細胞株に導入すると、anti-sense tat-RNA の発現と、転写制御蛋白質である TAR 発現がみられる。これらを通じて同細胞における HIV 産生、伝播を抑制する。また GEM 91 という Gag mRNA の anti-sense オリゴヌクレオチド (25 bases) が非常によく in vitro HIV 増殖を抑えることを報告した。

AZTなどの抗エイズ薬は、現在のところ、それ自身の投与では患者の治療に部分的効果しかみられないが、感染女性からの母子感染効率を著しく低下させている事実が、複数の臨床家によって報告された。

● 抗エイズ薬剤の標的候補蛋白質はHIVの逆転写酵素やウイルス成熟に働らく特異的蛋白分解酵素である。これら阻害剤に関する多数の報告があった。また新しい抗エイズ薬が既存の薬剤と併用することによって治療効果を高めたという複数の報告があった。その中の一つが Hydroxyurea である。

(4) 無症候長期生存者

米国の David Ho 博士は無症状、CD4陽性T細胞正常値、12年以上生存者のHIV抗体陽性者を Long-term non-progressor と名づけた。その10名を対象に発病抑制機構を調べた。HLA-I型、HLA-II型のMHCは本条件下特別の関係は見せな

かった、末梢血リンパ球培養ではウイルスは検出されても僅少で殆ど増殖しなかった。本培養からCD8陽性細胞を除去するとウイルス産生が増加し、再びCD8陽性細胞を加えるとウイルス産生が抑制された。正常者や発症者からの末梢血単核球(PBMC)培養では、HIVの産生もよくCD8陽性細胞の効果も顕著ではなかった。長期未発症者の細胞性免疫反応が強いと考えられる成績を述べた。

他の報告では、母子感染者や、血友病患者の汚染血液製剤からのHIV感染では、性的感染に比べて無症候長期生存者が多いという成績がえられている。

(5) ワクチン開発

京大ウイルス研速水教授らの弱毒レコンビナントワクチンの成果が、マスコミにも報道された。即ちサルエイズウイルス(SIV)のコア構造にヒトHIVの糖蛋白質を表面にもつキメラウイルスが、チンパンジーに抗HIV抗体を産生し抵抗性を賦与した。その後HIVを接種しても全く発病しないという成績を発表した。

Gallo博士ら(米国)は、HIV糖蛋白質を組んだワクチニアレコンビナントウイルスワクチンを開発し、in vitro 実験では効果を示した。しかし同様方式でのin vitro 防御効果が、エイズ新鮮分離雄株に対しては必ずしも有効ではない成績が他の研究室でえられていた。

その他の話題として印象に残ったことは、観光ガイド、交通ガイド、商業展示などに参加した有給の日本人や数百人の日本人ボランティアの英語力が非常にレベルアップしていることであった。またコンドーム会社の商業展示への参加などエイズ会議ならではのこともあった。1万人以上の参加者の会議なので、久しぶりに面会した日本や外国の友人も数多くあった。

3. おわりに

巨額の費用と莫大なエネルギーをかけた本国際会議が、それにふさわしい効果と影響をもったかどうか

かを評価することはむづかしい。これがお祭り騒ぎに終わらないように、然るべき効用をもつようになるのは、これからの官民の努力次第ではなからうか。

幸い日本では、感染源として入国する外国人風俗女性が、依然点としての存在に止まっている。日本の風俗業界でもコンドームの普及はかなり行渡っているようだ。こういう処置と同時に性モラルの確立や感染源となるような入国者の規制も必要であろう。

エイズの起因ウイルスであるHIVは、学問的には極めて興味あるウイルスである。変異し易さ、長期の潜伏期、ウイルス遺伝子の多様さ(制御遺伝子が多い)等々。このウイルスの出現がウイルス学の様相を変えたと言ってもよい。免疫学や遺伝学、生化学、はたまた疫学との結びつきを強めた。またウイルス学を一層民衆に近づけたとも云えそうである。



第1回国際エイズ会議の宣伝パンフレットとその中に画かれたシンボルマーク。



平成5年度学校法人決算について

事務局長 河野 光 次

去る平成6年5月27日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成5年度決算が審議のうえ承認されたので、消費収支計算書を掲載し、その概要を説明することとした。

(収 入)

平成5年度における帰属収入の合計額は、23億3375万円余で、予算に比して約1億2千万円の増となっており、前年度よりも約6千万円の増収であった。これは主として、当年度の学費改定にともなう学生納付金収入の増加によるものである。

(支 出)

平成5年度における消費支出の合計額は、20億912万円余で、予算に比して約2億2千万円の減となっているが、前年度よりも約4千万円の支出増であった。

人件費が約1億円の予算残となっているが、これは、平成5年度の本学教職員給与改定率（国家公務員の人事院勧告に準拠）が1.92%と非常に低率であったこと及び、その他の人件費抑制努力によるものである。

その他、支出関係で特筆すべき事として、文部省の私立学校施設整備費補助金及び私立大学研究設備整備費補助金（総額6251万円）を得て、高性能二重収束質量分析計（7828万円）、細胞自動解析システム（2232万円）及び教育用コンピューターシステム（2097万円）を購入した事がある。

以上の結果、平成5年度は約2億2千万円の収入超過となった。

消 費 収 支 計 算 書 総 括 表

〈平成5年4月1日から平成6年3月31日まで〉

(単位 円)

消 費 収 入 の 部				消 費 支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	1,751,600,000	1,789,075,000	△ 37,475,000	人 件 費	1,283,590,000	1,174,450,054	109,139,946
手 数 料	72,900,000	77,224,900	△ 4,324,900	教育研究経費	545,340,000	519,756,434	25,583,566
寄 付 金	0	17,796,560	△ 17,796,560	管 理 経 費	142,270,000	83,232,787	59,037,213
補 助 金	324,400,000	325,320,442	△ 920,442	借入金等利息	231,100,000	231,062,588	37,412
資産運用収入	30,000,000	66,680,202	△ 36,680,202	資産処分差額	0	619,667	△ 619,667
事業収入	6,450,000	9,903,942	△ 3,453,942	[予 備 費]	30,000,000	0	30,000,000
雑収入	24,700,000	47,755,549	△ 23,055,549				
				消費支出の部合計	2,232,300,000	2,009,121,530	223,178,470
				当年度消費収入超過額	0	222,098,843	
帰属収入合計	2,210,050,000	2,333,756,595	△ 123,706,595	当年度消費支出超過額	356,650,000	0	
基本金組入額合計	△ 334,400,000	△ 102,536,222	△ 231,863,778	前年度繰越消費支出超過額	1,832,050,000	1,736,439,567	
消費収入の部合計	1,875,650,000	2,231,220,373	△ 355,570,373	翌年度繰越消費支出超過額	2,188,700,000	1,514,340,724	



平成6年度 就職状況中間報告

就職部長 稲 森 善 彦
教 授

4月1日付で就職部長に就任し、初めての就職ガイダンスを4年次生249名（男子95名、女子154名）を対象に4月11日に行い、本年度の就職協定と就職スケジュールの説明を行った。また本年度から初めての試みとしてリクルート社に依頼して専門家による模擬面接を中心とした就職試験の際の面接等の心得についての講習も受けた。きびしい就職戦線を予想してか、学生諸君は熱心に見守り、メモを取っていた。更に、森本先生の就職部長時代からの慣例になっている進路希望の調査を目的とした面談を就職部員の先生方の協力を得て4月13～16日まで全員について行った。その際わかったことであるが、バブル経済崩壊の余波を受けての厳しい就職戦線を覚悟

してか、かなりの学生諸君が各企業への資料請求ならびにセミナーに参加していた。実に身のひきしまる就職活動のスタートであった。ほぼ把握出来た希望進路としては表Iの通りである。昨年と比較して、男子の大学院進学希望者がさらに増加して、37名と全体の39%を占めた。この増加も不況と密接な関係があるのではなかろうか。また薬業関連企業としては女子の医療情報担当者（MR）の希望が急増加し、表Iの31名よりは実際は考慮中の女子学生9名が加わり、最終的には40名、全体の26%に達した。とにかく、女子の企業MRへの情熱をひしひしと感じた。

10月上旬現在、企業、病院、薬局・卸、大学病院研修生ならびに大学院試験等の採用内定ならびに合

表 I 平成6年度卒業予定者進路希望調査状況

(平成6年4月23日)

区 分		男子	%	女子	%	計	%
薬業 関連 会社	営業	24	25.3	31	20.2	55	22.2
	研究・品質管理	4	4.2	21	13.7	25	10.1
	学術・開発	0	0	6	3.9	6	2.4
	その他	0	0	1	0.6	1	0.4
薬局・卸		1	1.0	5	3.2	6	2.4
病院・診療所		7	7.3	36	23.4	43	17.2
研修生		3	3.1	15	9.7	18	7.2
大学職員		0	0	0	0	0	0
公務員		5	5.3	14	9.1	19	7.6
大学院進学		37	39.0	8	5.2	45	18.1
自家業		0	0	0	0	0	0
就職しない		0	0	1	0.6	1	0.4
その他（考慮中も含む）		14	14.8	16	10.4	30	12.0
合 計		95	100	154	100	249	100

格通知が届きつつある。この時期での求人状態を簡単に昨年と比較した場合、薬業関連企業からの求人数は243件（昨年322件）と昨年より著しく減少し、求人数は製薬会社などの薬業関連企業で1059名（昨年1071名）で減少し続けている。しかも職種に微妙な変化があり、求人数と内定数には必ずしも比例関係は認められない。他大学薬学部ならびに薬科大学の就職内定状況も恐らく同傾向にあり、競争が一段と激化している点も原因の一つではなからうか。内定状況（平成6年10月6日現在）を表Ⅱに示した。薬業関連会社では、男子MR希望者（表Ⅰより1名増加）は、ほぼ満足した内定届を得ている。一方、女子のMR希望者は40名（表Ⅰより9名増加）であるのに対し、内定者は14名と昨年より4名減の厳しい結果であった。女子のMR希望者に対する厳しい就職戦線はこれからますます激化することが予想される。また、昨年度に比較して、研究・開発・品質管理の求人数も著しく減少しており、内定数も減少している。一方、大学院合格者（他大学大学院も含めて）は男子34名、女子9名と昨年同様、増加の傾向にある。いずれにしても、この不況を反映してか、大変厳しい数字が出ており、未だ115名の就職未決定者が残っており、深刻な問題で、日夜心を痛めている次第である。

大学院合格者数の大幅な増加が、多少就職難を解

消しているかに見えるが、2年後に、その学生諸君にも難しい就職戦線が待ち受けているかと思うと、心痛む思いがする。

夏休み直前、異例の病院・薬局（研修生も含む）希望者を集めて、積極的にアプローチをするよう激励した。



また、先日、慣例の3年次生への第1回就職ガイダンスを行った。今回は企業と病院という事で、OBにそれぞれ1名（計2名）の方に来ていただいて、現状と見通しについてお話しをしていただいた。学生諸君は翌日の試験（台風の影響で試験が一日延期）にも拘らず、熱心に耳を傾け、質問をしていた。両OB共、後輩に向かって、成績は勿論良いにこした事はないが、大切なことは積極的で明るい学生諸君を企業も病院も希望していると聞き、大いに参考になった。

表Ⅱ 平成6年度就職・進学内定状況

（平成6年10月6日現在）

区 分	男子	%	女子	%	合計	%
薬業関連会社（営業）	25	26.3	14	9.1	39	15.7
（研究・品質管理）	5	5.3	23	15.0	28	11.2
薬 局 小 売	3	3.2	12	7.8	15	6.0
病 院・診 療 所	0	0.0	12	7.8	12	4.8
公 務 員	0	0.0	2	1.3	2	0.8
進 学（大学院）	29	30.5	8	5.2	37	14.9
不 就 職	0	0.0	1	0.6	1	0.4
就 職 未 定 者	33	34.7	82	53.2	115	46.2
合 計	95	100.0	154	100.0	249	100.0



第29回大薬祭を顧みて

学生部長 森 逸 男
教 授

第29回大薬祭が若い学生諸君の熱意ならびに大学関係者のご支援により、この11月11日（金）より13日（日）の3日間にわたり賑やかにかつ盛大に催され無事終了することができました。これ偏に実習、講義の合間に準備を重ねてくれました数少ない大薬祭実行委員の地味な努力と積極的に学園祭に参加してくれました学生諸君の結集の成果であり、大学祭を見守ってきました一人として衷心よりお慶び申し上げます。

特に、本年（平成6年）は本学の創立90周年に当たり、この10月7日には創立記念式典も挙行されました。この記念すべき年に、学園祭のテーマを“創立90周年だよ、全員集合、地域密着・野外でポン”、の判りやすい表現のもと、昨年と同じく南実習棟（B棟）の南側芝生ならびに運動場にまたがった本学校庭に多くの模擬店を出店、野点（のだて）、バザー会場、野外ステージと文字どおりテーマにある“野外で”、また“地域密着”の学園祭であった

と思います。

3日間の非常に短い期間ではありましたが、幸いに天候にも恵まれて、初日、本学グラウンドで各クラブ代表ならびに特別実習チームの計28チーム参加によるバレーボール大会が行われました。また午後5時より体育館で人気バンドである“イー・ジー・バンド”による熱狂的サウンドに富んだ演奏がありました。コンサートは久しぶりに催されたこともあり、入場者も多く大成功であったかと思えます。

2日目には、野外ステージ、ホール、セミナー室などにおいて軽音楽部、APO、ESS、古美研、華道、漢医研、放送、コーラスなどによる各文化部による文化発表、ならびに恒例の“バラ祭”と、今年始めて催された“ユリ祭”が行われました。さらに今年限りで無くなります芝生の広場では、風情に満ちた茶道部による野立（のだて）も行われるなど多くの学生、卒業生を始め一般参加者を交えて非常にバラエティーに富み盛り上がりおりました。



3日目には、野外ステージにおけるフォークソング部コンサート、落研、箏曲部の文化発表ならびにミス・ミスター薬大の選出などが、また芝生の広場では、午前中、初めての試みとして、“地域への密着”を掲げたフリーマーケットが催され学生同志や地域の人との交流が目につきました。

今年の、第29回大薬祭は、例年行われてきました暗い体育館の中での催しとはひと味違って、健康的、開放的、明るく、非常に変化に富んだ学園祭として、成功りに終了することが出来たようです。この学園祭も本学が平成8年4月より高槻市阿武山への移転を予定していることを考えますとき、住み慣れた河合の街で行われるのもあと1回を残すのみで、学生諸君を始め教職員一同にとりまして本当に思い出に残る祭典であったかと思えます。

来年度の第30回大薬祭も、松原市での最後の学園祭として学生、教職員の参加は勿論のこと、大学周辺の住民の方々を交えて、本年にも増して活発に挙行されんことを期待します。

終わりに臨み、“地域に密着、野外でポン”のテーマのもと、一般学生ならびに教職員が、ともに参加できる学園祭とすべく努力してくれました大薬祭実行委員会、学友会執行部と各クラブ員諸君の昼夜にわたる努力を称えるとともに学園祭に種々御援助を頂きました同窓会、父兄会、製薬企業を始めとする関係各位に対しまして、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



関西薬連・全薬大会結果

◎ 関西薬連	団体	個人	
バレーボール	男子4位(9校中) 女子1位(11校中)		
卓球部	男子3位(6校中) 女子4位(8校中)	男子ダブルス	2位 水長③粕淵②
		女子シングルス	2位 林 ① 3位 土井①
バドミントン	男子1位(9校中) 女子1位(10校中)		
硬式野球部	4位(5校中)	有段の部	3位 田中③
柔道部	1位(5校中)	無段の部	2位 平井①
硬式テニス	男子2位(10校中) 女子2位(11校中)	男子シングルス	1位 筆坂① 3位 田上①
		女子シングルス	2位 吉谷② 3位 山本②
陸上競技	総合2位(5校中)		
	男子	トラック	4位
		フィールド	1位
		4×100m	3位
		4×400m	3位
		三段飛び	3位 只野③
		砲丸投げ	2位 木村④
		走り高跳び	3位 本城③
		円盤投げ	1位 内山③ 3位 中村③
	女子	トラック	3位
		フィールド	2位
		4×100m	2位
		100m	3位 武政①
		400m	2位 岩尾② 3位 乾 ②
		走り幅跳び	1位 田中② 3位 黒川①
		やり投げ	1位 中村②
剣道部	男子5位(8校中) 女子3位(8校中)		3位 阪口③ 3位 勝間③
軟式テニス	男子1位(8校中) 女子3位(9校中)	男子	2位 石本③芝山① 4位 仙田③森 ③
		女子	3位 時吉③木下① 4位 叶 ③西村③
バスケットボール	男子2位(6校中) 女子2位(6校中)		
サッカー	1位(8校中)		
◎ 全薬	団体	個人	
卓球部	男子決勝リーグ進出	女子ダブルス	3位 土井①林 ①
軟式テニス	男子2位(10校中) 女子2位(10校中)	女子	2位 時吉③木下①
剣道部	男子5位(8校中) 女子3位(8校中)		
バスケットボール	男子1位(9校中) 女子3位(9校中)	女子個人戦	3位 勝間③

保健室だより

■ 口腔保健年と8020運動

世界保健機関（WHO）は1994年4月7日～1995年4月6日の1年間を世界保健デーのテーマを「口腔保健」と決め“Oral Health for a Healthy Life”（健やかな生活は口腔保健から）という標語で口腔保健の推進を呼びかけている。日本においては、80歳まで20本の歯を保持することにより、長寿社会に向けて口腔の機能に支障をきたさず、QOL（quality of life）の高い健康が保持できると考えられ、1989年に8020運動が提唱され口腔保健事業が推進されている。

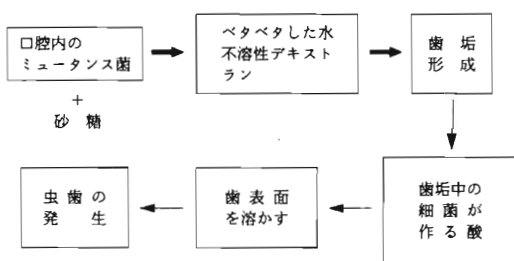
★歯を欠損させる疾患として、

う蝕（むし歯）と歯周病（歯槽膿漏）がある。これらは二大歯科疾患と言われている。

いずれも、口腔が不潔の状態に形成される歯垢が原因になっている。（図A参照）

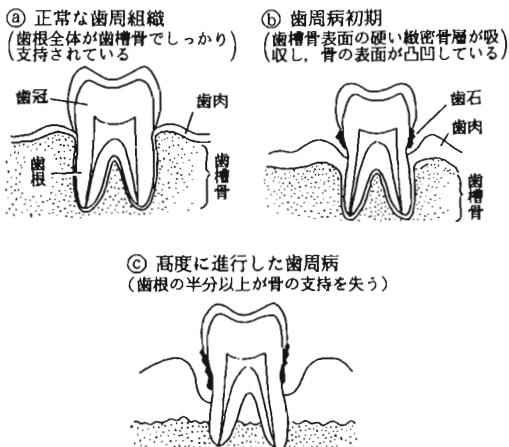
図A①

虫歯発生の模式図



図A②

歯周病の進行過程



★80歳まで20本の歯を残すには早期発見・早期治療を！

- 冷たいもの・熱いもの・甘味・刺激物を飲食したとき、しみるような痛みを感じたら受診してください。
- 歯がうく・動く、歯ぐきからの出血、歯ぐきの腫れ・変色、口の中の粘り、口臭など感じたら受診してください。

★予防について！

- 口の中を清潔にする。（食べたらブラッシング）
- 食物はよくかみ、甘い物は控える。
- 規則正しい生活習慣とバランスの良い食事。
- 口の観察をする習慣をつけ、定期的に歯石除去する。

★ブラッシングのポイント！（図B参照）

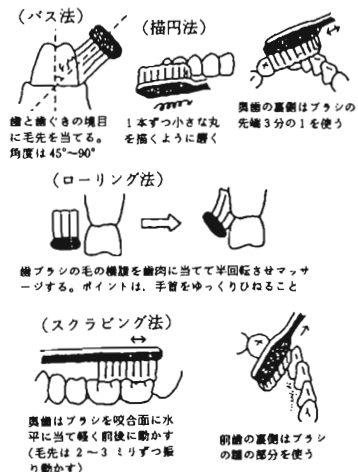
- 必ず自分の口に合った、ブラッシングフォームで磨く。
- 力を入れ過ぎず、ゆっくり1本ずつ丁寧に磨く。
- 歯と歯肉の境目の歯垢は残さない。歯と歯の間はデンタルクロス・歯間ブラシ・糸ようじなど使う。
- 歯ブラシは毛先の弾力がなくなった時（10～14日）が交換の目安です。

※一本でも多く、一生“自分の歯”でかみつづけるために努力してみてください。

（記 保健婦 辻 悦子）

図B①

基本的なブラッシングフォーム



図B②



第二生薬学教室

助教授 馬場 きみ江



本館から中庭を抜け、ピロティーを上った二階正面右側に私たちの第二生薬学教室があります。夕方お茶の時間になると、中から騒がしい声が響いてくる教室だと言えば、多分お分かりになるかと思

います。現在の教室員は四年生の研究室配属者10名、大学院生4名、研究生1名、外国人客員研究員の王年鶴氏（中国・南京）、助手の谷口雅彦君と私の総勢18名の大家族です。さらに四年生の学外実習生12名が加わったコンパの時などは、まるで中学校の1クラスの担任のような気分になります。昨年5月に教室主任であった小澤貢教授が闘病のあと他界され、現在の教室をお預かりすることになりました。当初は本当にうまくやって行けるかと不安で、自信も無かったのですが、教室員の助けもあり、どうにか無事現在に至っています。それでも、年のせいか、最近は物忘れがひどく、周りの人たちに「よく覚えておいてよ!」と頼み込んでいる始末です。まあ、以前より多少雑用が増えたのも一因かもしれませんが……。

現在の研究テーマは「セリ科、マメ科、ジンチョウゲ科植物のフェノール性成分の検索と生理活性およびケモタキソミーに関する研究」です。これらの内容は、秦清之教授、小澤貢助教授、そして私が助手で構成されていた生薬化学教室の時代から少しずつ形を変えながら続行してきたもので、もとはと言えば、「セリ科植物のクマリン成分に関する研究」が出発点となっています。したがって、研究室にはその当時の古い貴重なサンプルや実験データが

数多く残されています。これらを守り、さらに研究を発展、展開させていくこと、また次の時代の人たちにしっかりと引き継がせることが私の使命だと考えています。現時点では無意味な研究であると思われるものであっても、将来的にどのように発展するか、またどのような意味を持つ事になるか誰にも予測出来ません。生薬学、天然物化学は化石の学問だと言う人たちがいます。また生薬に携わっている人の中にさえそう思っている人もいます。しかし、医薬資源の開発に必要なリード化合物を探索することにおいては、これからも重要な学問の一つであることには変わりはありません。特に最近問題になっている、癌、エイズ、その他種々の成人病等に有効な薬を天然から見つけだすこと、それは生薬、天然物を扱う者にとって架せられた使命であると言わざるを得ません。庭木で知られるジンチョウゲから単離した新規ビフラボノイド類に抗エイズ活性が認められたこと、八丈島産セリ科植物であるアシタバから得たカルコン類や、タイ国のマメ科生薬から得たオリゴスチルベン類にプロトンポンプ阻害による抗潰瘍作用が認められたことなど少しずつ成果が出てきています。しかし研究はまだまだこれからです。教室員一同大きな夢を持って頑張っています。もしアシタバに興味をお持ちの方がおられましたら、一度研究室を訪ねてみて下さい。



助教授 土井 光 暢



40年以上にわたって本学にご奉職されてこられた井上正敏教授が本年をもって定年退任され、その後の第1物理化学教室を代行という形ではありますがお預かりすることになりました。私は、井上正

敏先生のもとで昭和58年からお世話になって参りましたが、当時は、井上先生の教室におられた石田寿昌先生が、第2物理化学教室として独立された時でもありました。それ以来、井上先生と石田先生は第1、第2の枠を超えて物理化学教室の発展にご尽力されてこられました。私はその中で、今日まで両先生から教えを賜り、井上先生が退任された本年度からは、伝統ある当研究室の発展に誠に微力ではありますが、心新たに全力を尽して参りたく存じます。

現在の研究室は、西研究棟2Fに31㎡の研究室と、14㎡の測定室があります。スペース的には決して十分ではありませんが、ここに樽井麻里子助手と大学院生2名、特別研究の4年生4名の8名が配属されております。環境の改善という点では、高槻移転が待ち望まれます。私どもが取り組んでおりますのは、生体に関連した物質であり、特にそれらの機能や活性が生命活動にとって極めて重要であるものの立体構造を調べることにあります。一般的には、核酸やポリペプチドに類する様々な物質の構造と、それらの間に見られる相互作用が、機能と活性にどのように関連しているかを、X線を用いてオングストローム (10^{-10}m) 又はナノメートル (10^{-9}m) という原子が識別できるオーダーで観測します。これらは古典的な物理や化学をテーマにしている訳ではありませんが、物理と聞いただけで、直感的に敬遠される方が薬学部にも多いように思えます。実際のところは多くの方がイメージされるようなことはなく、先の

X線の観測データに関する数式・計算は全てコンピューターが処理をしてくれます。我々は、出てきた結果をターゲットにしている物質の機能・活性と如何に結び付けるかというところにエネルギーを注ぎます。これによって見えてくる世界は、大変規則正しく、美しくもあります。むろん、いつもうまく行くとはいりませんが、自分の手でナノメーターの世界を開くことのできた方は大きな感動を得ることができると思います。

近年は、薬剤師国家試験出題基準の見直し、薬学部6年制導入、大学設置基準の改定、600点業務など内外において、“薬学”そのもののあり方について大きな転換を強いられる時期にあります。また、本学は18歳人口の減少の中、大学の存続をかけて、高槻移転と大学組織の改革を試みようとしております。この激しく変わりつつある薬学と本学において、基礎科目一般にあてはまることではありますが、物理化学という教科は如何なる分担を負うべきか、近い将来大変難しい選択を行わなければいけなくなると思われます。そのためにも、第2物理化学教室の石田寿昌教授、尹康子助手、友尾幸司助手とのより一層の協力の下に、我々自身の変革を行いたいと考えています。



実験室風景



大阪薬科大学における 今からの薬学教育

薬学教育検討委員会委員長

教授 玄 番 宗 一

はじめに

医薬分業の進展、医薬品情報や治療薬物モニタリングなどの業務に加えて、服薬指導や在宅ケアにおける薬剤師の役割が定着しつつあります。これらの遂行には、薬剤師の職能を飛躍的に向上させなければなりません。今から薬学を学ぶ人たちに、大学がそのような状況に対応できるカリキュラムを提供する必要に迫られています。本学における今からの薬学教育の目指すところは、学生が基礎科目の十分な知識を基盤に、薬剤師として必要な病気の成り立ちと診断の基準を理解し、薬物の適正な選択と使用に関わる素養を培うことにあると言えます。

1 医療薬学教育の充実

上に述べたような薬学教育を实らせるためには、直接に医療に関わる学科目の充実が急務でしょう。これまでの“モノ”を対象とした教育から、“ヒト(患者)”を対象とする医療に根差した教育へと視点を変えなければなりません。

学部により教育の目指すところが異なります。例えば、理学部では、主に研究者養成であり、医学部では、臨床医としての職能の養成にあると言えます。

これらに比べて、薬科大学(薬学部)では、教育の目指すところは曖昧であり、これまでの薬学教育において、薬剤師の養成に十分な力を注いで来たとはいえないと思われます。理学部が研究者の養成に、医学部が臨床医の養成に曖昧な教育の場であったとしたら、どこに魅力があるのでしょうか。医学部が臨

床医の職能教育に力を入れたがために、特に研究レベルが低下したとの話を耳にしたことはありません。ましてや創薬への貢献度が低いとも思えません。このように、薬科大学(薬学部)がその特徴である薬剤師の養成に力を注ぐことにより、卒業生は医療に根差した高度な職能をいかして、薬剤師として以外にも創薬などの多様な職種において、これまで以上に立派な貢献すると思われま

2 医療に関わる学科目名とは

薬剤師が医療に携わる際に、その職能発揮に直接に必要なとされる知識・技能を得るための学科目と考えます。なかでも、一般的な疾病について、病因・症状・検査値に加えて、医薬品の適正な選択・使用の理解に関わる学科目は大切です。本学では、すでに開設している薬剤学や薬理学を含めて、8学科目を『医療薬学に関わる学科目』とし、各々についての開設予定必修科目数を検討中です(表1)。私の知る限り、本学におけるこれまでのカリキュラムにおいて、病態生理学、臨床薬理学や臨床医学概論の開講はなかったようです。病理学などの類似する学科目を開設していますが、今後直接に医療に関わる学科目を充実させる必要があります。

3 日本私立薬科大学協会『医療薬学教育のためのシラバスについて』と本学で開設予定の対応科目名

平成8年度(現3年次生)から新しい薬剤師国家試験出題基準が適用されます。これに伴い日本私立



講義室にて（3年次生）

薬科大学協会は、国家試験出題基準の『医療薬学』に対応するために、医療薬学関連科目のシラバスについてモデル案を作成しました。基礎薬学の知識を十分に理解していることを前提に、本案の実施に442.5時間を必要とし、それは4年制における授業可能時間数の約1割強を占めます。モデル案そのものはたいへん詳しいものですが、表2に項目と時間数のみを取り出し、併せて本学における医療薬学科目名を対応させています。医療薬学の内容理解の一助になれば幸いです。

4 病院実務実習の充実

医療薬学教育の充実にとって、医療薬学に関わる学科目の改善に加えて病院実務実習の充実は、もう一つの大きな柱です。このことは、付属病院をもたない単科の薬科大学の泣き所でもあるわけです。本学が、特別実習として希望者（毎年約80～90名）に3カ月間の病院実習を導入して以来約10年近くになります。それに加えて、さらに充実を図る一環として、できるだけ多くの学生を対象に短期（2週間）の病院実務実習の制度化を考えています。履修単位の認定を含めて、現在本学医療薬学実習委員会（委員長掛見教

授）に、具体案の検討をお願いしています。実施時期については、現2年次生が高学年次を迎える頃を目標にしています。

5 旧カリキュラムについて

現2、3年次生に適用されているいわゆる“旧カリキュラム”については、すでに高学年次にさしかかっていますが、最小ながらも必要な改善を考えています。短期病院実務実習の制度化については、上に述べました。さらに、4年次前期において『臨床薬理学』（1単位）を新規に開設し、さらに臨床医学に詳しい専門家による『臨床医学講話』を随時開催する予定です。これらによって、疾患の診断や治療についての知識を深めることができると思います。平成8年度（現3年次生）から新しい薬剤師国家試験出題基準が適用されることについてはすでにふれましたが、『基礎薬学60問』、『医療薬学120問』、『衛生薬学40問』、そして『薬事関連法・制度20問』（計240問）の出題の基準である小項目の内容が、本学における開設（予定）科目のシラバスに含まれるように検討を進めています。

6 今後の検討課題

薬科大学（薬学部）を6年制に改革するとの意見



講義室にて（3年次生）

があります。厚生省の薬剤師養成問題検討委員会報告書によりますと、遅くとも今から約6年後（平成12年度）の入学生から薬剤師国家試験受験資格に6年を必要とすることになります。このことについて、学内での議論は充分ではありません。しかしその前に、大学院の改革が急がれます。入試や特論のあり方については、すでに大学院小委員会（委員長池田教授）を中心に討議され、ほぼ結論を得ているようです。今後の早い時期に、大学院志望者数について低迷の原因や増大の方策を探り、医療薬学コースの設置を検討する必要に迫られています。

前教育検討委員会（前委員長森本史郎教授）と教務部（部長千熊教授）のご努力が実って、現1年次生から新カリキュラムが実施されています。その時点で、最良のカリキュラムであったとしても、薬学

の進歩、社会の情勢変化や要望などにより、たえず教育の改革に取り組まなければならない宿命にあるといえるでしょう。したがって、新カリキュラム実施の経過に伴いその点検や評価の検討を進めることも、今後のたいへん重要な課題です。

おわりに

基礎科目の充実ぶりを、本学は誇りとしています。さらに点検・評価を試みます。他方で、医療薬学に関わる学科目を充実させ、基礎から応用への密な関連をもつカリキュラムのもとで、高度な職能に裏付けられた薬剤師教育を目指さなければなりません。本記事の内容に関するご意見やご質問を薬学教育検討委員会にお寄せください。

学生の皆さんが本学で学ぶ誇りと、それに答える教職員の熱意に期待します。

表1 医療薬学に関わる学科目名および必要な必修科目数（半年間開講を1科目とする）

学科目名	必修科目数 (薬学教育検討委員会案)	参考資料 (私立薬科大学協会案)
①病態生理学	1科目	2.5科目
薬理学関連科目		
②薬理学	4	6.0
③医薬品毒性学	1	2.4
④臨床薬理学	1	3.0
	6	11.4
薬剤学関連科目		
⑤薬剤学	5	4.1
⑥薬物動態学	2	1.0
	7	5.1
⑦臨床医学概論	1	2.2
⑧医薬品情報学	1	0.2
開設予定の必修科目数 合計	16科目	21.4科目

表2 私立薬科大学協会『医療薬学教育のためのシラバスについて』における
医療薬学に関わる学科目に必要な授業時間数と本学における対応科目名

項目	必要な授業時間数 (相当する科目数)	本学において対応する 医療薬学科目等の名称
1 医療薬学総論	54.5 (2.8 科目 相当)	
A 医療と生命倫理	21.0 (1.1科目)	臨床薬理学・薬剤学・ 臨床医学概論
B 医療薬品総論	33.5 (1.7科目)	医薬品毒性学・推計学
2 疾病と病態	75.0 (0.3 科目 相当)	
A 病態生理総論	28.0 (1.4科目)	病態生理・臨床検査総論
B 疾病と病態生理	47.0 (2.4科目)	病態生理・臨床医学概論
3 医薬品の有効性と安全性	285.0 (14.6科目 相当)	
A 医薬品の薬理	117.5 (6.0科目)	薬理学
B 医薬品の安全性	27.0 (1.4科目)	医薬品毒性学
C 薬物の体内動態と投与経路	34.0 (1.7科目)	薬剤学・薬物動態学
D 薬物治療	64.0 (3.3科目)	臨床薬理・臨床医学概論
E 製剤の基礎的な特性と製剤のための修飾	18.5 (1 科目)	薬剤学
F 製剤の性状, 製法と試験	24.0 (1.2科目)	薬剤学
3 医薬品の有効性と安全性	28.0 (1.5 科目 相当)	
A 処方せんの点検	5.0 (0.3科目)	薬剤学
B 調剤の実際	4.0 (0.2科目)	薬剤学
C 医薬品情報	4.5 (0.2科目)	医薬品情報学
D 患者への服薬説明	3.0 (0.2科目)	薬剤学
E 注射剤・輸液の取扱い	7.5 (0.4科目)	薬剤学
F 放射性医薬品の取扱い	1.5 (0.1科目)	放射薬品学
G 診断用医薬品の取扱い	0.5	薬剤学・臨床医学概論
H 医薬品の管理	2.0 (0.1科目)	薬剤学・薬事関連法
私立薬科大学協会案 → 総授業時間	442.5 時間 (22.7科目 相当)	

以上のモデル案は、学生が医療薬学科目を学ぶにあたって基礎薬学の知識を十分理解していることが前提であり、週1回(1.5時間)の授業半年間を1科目(13週, 19.5時間)と算出した

教務課だより

■ 大学入試センター試験

本学は平成7年度より大学入試センター試験を利用する入試（一般入試C方式）を導入しましたが、同試験期日の平成7年1月14日（土）、15日（日）には、本学を試験会場として500名（男子363名 女子137名）の受験生が受験する予定です。

■ 薬剤師国家試験

第80回薬剤師国家試験は、平成7年4月2日（日）、3日（月）の2日間にわたって実施されますが、その概要は以下の通りです。

（試験地） 北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、徳島県、福岡県
（大阪府の試験会場は例年、本学となっています。）

（試験科目）

〔学説試験〕

薬理学、衛生化学、公衆衛生学、薬剤学、薬事関係法規、日本薬局方

〔実地試験〕

薬剤学、衛生化学、公衆衛生学、日本薬局方

なお、同試験は第81回〔平成8年〕より3月末に実施される予定です。

■ 講義には出席しよう

平成6年度入学生より新カリキュラムが導入され、現在進行していますが、同時に出席制度も導入されています。前期の出席状況が不良のため、「学則」および「授業科目の履修要項」に基づき、21名もの学生が特定科目について、前期定期試験の受験資格を喪失しました。

後期および今後は、くれぐれも講義の出席を怠らないように注意してください。

■ 掲示をよく見よう

最近、学生諸君の掲示の見落としや勘違い、また各種届・願の提出期限の不履行などのケアレスミスが目立ちます。これらによって学内試験の受験資格を

失い、受験不可となる場合もありますので注意してください。

学内ルールを守ってトラブルをなくしましょう。

■ 医療薬学実習

平成7年度入学生より、薬系大学として「医療薬学」の一層の充実を図るため、従来の衛生研究所や病院臨床検査部での学外実習制度を廃止し、病院薬剤部での実務実習（研修）に主眼を置くこととなりました。

■ 不正行為

学内試験において不正行為があった場合、当該学生に対しては、当該期の受験科目はすべて無効（0点）となる他、停学（7日間）の処分が行われますので、その結果として、留年になる確率が極めて高いことは言うまでもありません。試験にあたっては、不正行為と疑われるような行為（キョロキョロする等）は絶対にしないで、正しい態度で受験するように求めます。

平成7年度

大学院薬学研究科博士前期 課程（修士課程）入学試験

（1次募集）

募集人員 約16名

出願期間 平成6年7月26日（火）～8月6日（土）

学力試験 8月23日（火）〔外国語（英語）・専攻科目
（12科目25問から6問選択）〕

合格発表 8月30日（火）

志願者 39名〔男子29、女子10（学外1）〕

受験者 39名〔男子29、女子10（学外1）〕

合格者 35名〔男子27、女子8〕

（2次募集）

募集人員 若干名

出願期間 平成6年10月12日（水）～10月17日（月）

学力試験 10月25日（火）

合格発表 10月28日（金）

志願者 5名〔男子4（学外1）、女子1〕

受験者 5名〔男子4（学外1）、女子1〕

合格者 5名〔男子4（学外1）、女子1〕

大学院薬学研究科の主な研究分野

専攻科目	指 導 教 員	研 究 内 容
薬 化 学	教 授 ※沼田 敦	昆虫生理活性物質の構造研究 抗癌性天然物の構造研究
	助教授 ※有本 正生	リグナン関連化合物に関する研究 有機ケイ素化合物に関する合成研究 高原子価有機ヨウ素化合物を用いる反応に関する研究
生 薬 学	助教授 ※馬場きみ江	生薬成分の構造解析およびその生理活性に関する研究 植物の成分と分類体系の相関性に関する研究
	教 授 ※草野源次郎 助教授 三野 芳紀	植物由来の生理活性物質に関する研究 生薬含有成分の定量法に関する研究 生体の鉄取り込み機構に関する研究
薬 品 製 造 学	教 授 ※栗原 拓史 助教授 春沢 信哉	創薬を目指した含窒素複素環化合物の合成研究 環状チオノカーボネートを用いる生理活性天然物の合成研究 合成試薬の開発と応用に関する研究 ヘテロアリアル C-ヌクレオシドの合成研究
	助教授 ※赤木 昌夫	医薬品、生体成分の光化学反応に関する研究 光化学反応による生理活性物質の合成研究 合成オリゴヌクレオチドと制癌剤との相互作用に関する研究
医 薬 品 化 学	教 授 ※松永 春洋 講 師 田中 麗子	森林産業廃棄物の医薬への活用：発癌プロモーション抑制作用を有するマツ科 亜高山植物樹皮および葉の含有成分トリテルペノイド類の医薬への応用開発 癌細胞増殖抑制作用を有するトウダイグサ科有毒帰化植物成分の医薬への応用開発 抗真菌活性を有するテルペノイド化合物に関する研究
衛 生 化 学	教 授 ※藤田 直陽子 助教授 藤本 陽子	活性酸素、過酸化脂質の生成と消去に関する研究 アラキドン酸代謝とその調節機構に関する研究
生 化 学	教 授 ※池田 潔 講 師 井上 晴嗣	ホスホリパーゼの酵素機能の分子論 細胞成長因子の分子生物学 細胞毒タンパク質の構造と機能
	教 授 ※保坂 康弘 助教授 黒田 和道	インフルエンザウイルスの体内伝播と局所免疫応答の研究 ウイルスの抗原提示機構の分子生物学および細胞生物学的研究 抗インフルエンザウイルス活性をもつ物質やワクチンの研究
微 生 物 学	教 授 ※稲森 善彦 助教授 辻坊 裕	微生物由来の酵素遺伝子の解析および改変 微生物における酵素遺伝子の発現調節機構 含硫化合物の合成と生物活性 微生物変換における有用物質の生産
	助教授 ※松村 瑛子	新しい微生物酵素の発見とその応用に関する研究 微生物の産生する免疫調節物質に関する研究 老化にともなう脳内酵素活性の変動と神経細胞の分化・生存に影響を及ぼす 諸因子の研究
薬 剤 学	教 授 ※掛見 正郎 助教授 森本 一洋	薬物の生体内動態と薬理効果の消長に関する速度論的研究 医薬品の吸収・分布・代謝・排泄に関する薬物速度論的研究 医薬品の最適投与方法、投与計画の設定と、それに基づいた最適製剤および 最適薬物送達系の設計
	教 授 ※森本 史郎 助教授 松村 靖夫	循環器系薬物に関する薬理学的研究 レニン・アンジオテンシン系およびカリクレイン・キニン系の薬理学 エンドセリンの産生機構に関する研究
薬 理 学	教 授 ※玄番 宗一	腎臓における薬物の膜輸送系 薬物による腎毒性の発現機構 虚血性腎障害の病態生化学と薬理学
	教 授 ※森 逸男 助教授 藤田 芳一	有機試薬に関する研究 医薬品、生体成分の分析に関する研究
薬 品 分 析 学	教 授 ※千熊 正彦 講 師 齊藤 睦弘	医薬品、生体関連物質と金属イオンとの相互作用に関する研究 微量元素、生体成分に関する分析化学的研究 機能性高分子の分析化学的応用に関する研究
	教 授 ※石田 寿昌 助教授 ※土井 光暢	生体分子認識機構の構造化学 酵素阻害剤の分子設計 タンパク質合成開始因子の構造機能解析 生理活性ペプチドの構造解析 タンパク質——核酸相互作用に関する構造化学的研究
放 射 薬 品 学	教 授 ※田中 千秋 助教授 大桃 善朗	放射性医薬品の開発研究
	助教授 ※木村捷二郎	放射線および核的現象の薬学利用に関する研究 地球環境と放射能動態に関する研究

※は研究グループの代表者を示す

学生課だより

■ ミーティングキャンプについて

夏季休業中の8月18日、19日の2日間、関西地区大学セミナーハウスにおいてミーティングキャンプが開催されました。

学友会の執行部、各クラブ部長、次期部長など82名、学生部教職員8名、計90名が参加しました。

期間中、校医の朝井先生に依頼し、「酒、たばこの関係」、「一気飲み」、「肝臓のアルコール処理能力」などについて講演していただきました。

そのほか、学生達の間では大葉祭についての協議を中心に意見交換が行われました。

また、学生と学生部教職員との懇談が夜遅くまで続けられ、「移転」、「週休2日制」、「大学生協の設立」などが話題にのぼりました。



■ オリンピック強化選手に認定さる

2年次生澤渡麻紀さんは、日本オリンピック委員会（古橋廣之進会長）より、漕艇（ボート）種目の平成6年度オリンピック強化指定選手として認定をうけました。

この制度は、オリンピック大会で実施される正式種目の日本代表として参加可能な者を強化選手として認定し、その自覚を促すとともに効果的な強化活動の展開を図ることを目的としています。

彼女は滋賀県大津市出身で、膳所高校時代にボートを始めました。国体には過去3年間連続出場し、山形大会シングルスカル2位、東四国大会かじ付フォー準決勝進出、愛知大会シングルスカル準決勝進出のほか、朝日レガッタでも過去2年連続ダブルスカルで優勝の好成績を残しています。

本学入学後は地元大津市のクラブチームに所属し、

瀬田川でボートを使い実戦に近い練習をこなしています。学生寮に入寮しているため、毎週末講義が終わると急いで帰省、その日は約10km漕いだ後、ウェイトトレーニングを行っています。日曜日は同じ練習を午前と午後に分けての2部練習をこなし、学生寮に戻る生活を続けています。寮では、足腰などを鍛えるためにマシンを使ったトレーニングとレースを想定したイメージトレーニングを取り入れていますが、講義と実習、そして練習参加の帰省費などを得るためのアルバイトに追われ時々練習を休むこともあるようです。

「ボートはマイナーなスポーツと思われるかもしれませんが、選手層は厚いのでオリンピックに出場するのは夢で終わるかもしれません。それでも、強化選手に選出されたことを誇りに思い、高校時代に決めた薬剤師の道に支障のない範囲で精一杯頑張ってみたい」と語ってくれました。

2年後には「アトランタオリンピック出場」と「卒業」の栄冠を手に入れられんことを祈念します。

奨学生状況

平成6年11月1日現在

1. 日本育英会

	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	合計
1種	20	24	32	25	4	5	1	1	1	113
2種	19	23	31	26	—	—	—	—	—	99
計	39	47	63	51	4	5	1	1	1	212

2. その他の育英・奨学金

	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	計	給貸
小野奨学会 30,000円	1	1	1	1	—	4	給
佐藤奨学会 17,000円	0	1	0	0	—	1	給
大東育英会 15,000～25,000円	0	0	1	2	—	3	給
朝鮮奨学会 25,000円	0	0	1	1	—	2	給
大阪府育英会 23,000～25,000円	2	1	6	5	—	14	貸
電通育英会 20,000円	0	1	0	0	—	1	貸
父兄会奨学会 20,000円	4	0	3	1	1	9	貸
あしなが育英会 40,000円	1	0	0	0	—	1	貸
岩国市教育委員会 20,000円	2	0	0	0	—	1	貸
田布施町教育委員会 20,000円	0	0	1	0	—	1	貸

庶務課だより

■ 井上正敏名誉教授に感謝状

前号でお知らせいたしました、井上正敏名誉教授には、昨年度末定年退職時に、高槻新キャンパスの緑化のために多額のご寄附をいただきました。

このことについて、平成6年5月18日(水)本学において理事長より感謝状が同名誉教授に贈られました。



人事異動

昇任(平成6年10月1日付)

課長補佐 松尾真充(施設課)

課長補佐 藤田純生(学生課)

係長 吉田弘子(図書館課)



■ 海外出張

阿部 功助教授(経済学)

〈出張期間:平成6年5月17日~5月25日〉

環境問題、資源リサイクルに関する調査団のコーディネーターとしてドイツ、イギリスを視察
保坂 康弘教授(第二微生物学教室)

〈出張期間:平成6年10月2日~10月11日〉

ポルトガル・エストリルで開催の第9回国際ネガチブストランドウイルス会議に出席

図書館だより

■ 新着ビデオ教材について

このたび、下記ビデオを購入し3F閲覧室に配架していますので活用してください。

- ・フロンによるオゾン層の破壊
- ・日本の自然を語る
- ・熱帯雨林の生態
- ・酸性雨
- ・砂漠の緑化

■ 寄贈図書について

このたび、下記図書の寄贈がありました。志に対して感謝を込め大切に利用してください。

* 本学同窓会から

- ・カルテ用語辞典
- ・薬剤師のための服薬指導の方法
- ・健康栄養食品事典
- ・医薬品相互作用ハンドブック
- ・薬価基準点数早見表(平成6年4月版)
- ・くすりと病気のQ&A
- ・日本医薬品集(一般薬)1994-95
- ・日本医薬品集(医療薬)1993
- ・薬剤識別コード事典
- ・病気の地図帳
- ・医薬品相互作用
- ・ポケット医薬品集'94
- ・今日の治療薬'94
- ・臨床検査ガイド'94

* 坂田勝治教授(英語)から

- ・リーダーズ・プラス

(AN ENCYCLOPEDIA SUPPLEMENT TO THE DICTIONARY FOR THE GENERAL READER)

■ お知らせ

期末試験前は、図書閲覧室が自習室に早がわりし、満席の 때가しばしばあります。

閲覧室が満席の時は、本館3F33教室が自習室となっていますので利用してください。

平成6年度
各部・委員会・委員

◎各部署の長
(平成6年12月1日現在)

教務部

加藤 義春(助教授)
松村 靖夫(助教授)
西野 隆雄(講師)

◎千熊 正彦(教授)

馬場きみ江(助教授)
土井 光暢(助教授)

学生部

望月伸三郎(教授)
松村 瑛子(助教授)
土井 光暢(助教授)

◎森 逸男(教授)

赤木 昌夫(助教授)
春沢 信哉(助教授)

就職部

沼田 敦(教授)
松村 瑛子(助教授)
大桃 善朗(助教授)

◎稲森 善彦(教授)

藤田 直(教授)
辻坊 裕(助教授)

図書館

三野 芳紀(助教授)
楠瀬 健昭(講師)

◎藤田 直(教授)

藤田 芳一(助教授)

学生寮

森 逸男(教授)
濱中久美子(助教授)

◎望月伸三郎(教授)

馬場きみ江(助教授)
藤本 陽子(助教授)

薬用植物園

松永 春洋(教授)
馬場きみ江(助教授)
三野 芳紀(助教授)
喜多 俊二(助手)
芝野真喜雄(助手)

◎草野源次郎(教授)

沼田 敦(教授)
木村捷二郎(助教授)
西野 隆雄(講師)
谷口 雅彦(助手)
森本 武司(事務局次長
施設課長)

実験動物センター運営委員会

藤田 直(教授)
保坂 康弘(教授)
松村 瑛子(助教授)
安田 正秀(講師)

◎玄番 宗一(教授)

池田 潔(教授)
掛見 正郎(教授)
松村 靖夫(助教授)
西野 隆雄(講師)

総務委員会

森本 史郎(教授)
沼田 敦(教授)
栗原 拓史(教授)
稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授)

◎久保田晴寿(学長)

森 逸男(教授)
藤田 直(教授)
池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)
河野 光次(事務局長)

施設委員会

森本 史郎(教授)
沼田 敦(教授)
栗原 拓史(教授)
保坂 康弘(教授)
河野 光次(事務局長)

◎久保田晴寿(学長)

森 逸男(教授)
藤田 直(教授)
池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)

研究委員会

沼田 敦(教授)
大桃 善朗(助教授)

◎保坂 康弘(教授)

森本 一洋(助教授)

大学院小委員会

千熊 正彦(教授)

◎池田 潔(教授)

掛見 正郎(教授)

広報委員会

赤木 昌夫(助教授)
北氏 明正(事務局次長
図書課長)

◎藤田 直(教授)

西野 隆雄(講師)
伊藤 美雄(庶務課長)

公開教育講座委員会

森本 史郎(教授)
石田 寿昌(教授)
森本 一洋(助教授)

◎掛見 正郎(教授)

玄番 宗一(教授)
中元 安雄(助教授)
西野 隆雄(講師)

市民講座委員会

石田 寿昌(教授)

◎森本 史郎(教授)

掛見 正郎(教授)

R I 施設運営委員会

森本 史郎(教授)
藤田 直(教授)
玄番 宗一(教授)
石田 寿昌(教授)
草野源次郎(教授)
木村捷二郎(助教授)

◎田中 千秋(教授)

沼田 敦(教授)
保坂 康弘(教授)
稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授)
掛見 正郎(教授)
河野 光次(事務局長)

動物実験委員会 ◎池田 潔(教授)
藤田 直(教授) 保坂 康弘(教授)
玄番 宗一(教授) 掛見 正郎(教授)
松村 瑛子(助教授) 松村 靖夫(助教授)
安田 正秀(講師) 西野 隆雄(講師)
伊藤 美雄(庶務課長)

組換えDNA実験安全委員会 ◎保坂 康弘(教授)
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)
森下 利明(教授) 池田 潔(教授)
稲森 善彦(教授) 石田 寿昌(教授)
黒田 和道(助教授) 細川 康(学外)
伊藤 美雄(庶務課長)

バイオハザード予防委員会 ◎稲森 善彦(教授)
田中 千秋(教授) 池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授) 松村 瑛子(助教授)
安田 正秀(講師)

防火対策委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森本 史郎(教授) 森 逸男(教授)
栗原 拓史(教授) 稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授) 河野 光次(事務局長)
森本 武司(事務局次長) 伊藤 美雄(庶務課長)
高橋 正好(教務課長) 井頭 八郎(学生課長)

情報処理室運営委員会 ◎石田 寿昌(教授)
森 逸男(教授) 保坂 康弘(教授)
土井 勝(教授) 千熊 正彦(教授)
掛見 正郎(教授) 土井 光暢(助教授)
大石 宏文(助手) 高橋 正好(教務課長)
井頭 八郎(学生課長)

大型共同機器整備計画委員会 ◎保坂 康弘(教授)
沼田 敦(教授) 藤田 直(教授)
玄番 宗一(教授) 土井 勝(教授)
石田 寿昌(教授) 木村捷二郎(助教授)
松村 瑛子(助教授) 三野 芳紀(助教授)

入試委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森 逸男(教授) 沼田 敦(教授)
碓井 信二(教授) 土井 勝(教授)
坂田 勝治(教授) 千熊 正彦(教授)

医療薬学実習委員会 ◎掛見 正郎(教授)
千熊 正彦(教授) 赤木 昌夫(助教授)
中元 安雄(助教授) 三野 芳紀(助教授)
森本 一洋(助教授) 土井 光暢(助教授)
西野 隆雄(講師)

薬剤師国家試験対策委員会 ◎掛見 正郎(教授)
松永 春洋(教授) 玄番 宗一(教授)
石田 寿昌(教授) 馬場きみ江(助教授)
藤本 陽子(助教授) 西野 隆雄(講師)

人権委員会 ◎森 逸男(教授)
森下 利明(教授) 稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授) 阿部 功(助教授)
井頭 八郎(学生課長)

自己評価検討委員会準備委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森 逸男(教授) 藤田 直(教授)
碓井 信二(教授) 池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授) 千熊 正彦(教授)
木村捷二郎(助教授) 松村 瑛子(助教授)

建設委員会 ◎栗原 拓史(教授)
森本 史郎(教授) 沼田 敦(教授)
池田 潔(教授) 石田 寿昌(教授)
河野 光次(事務局長)

薬学教育検討委員会 ◎玄番 宗一(教授)
沼田 敦(教授) 池田 潔(教授)
望月伸三郎(教授) 千熊 正彦(教授)
掛見 正郎(教授) 高橋 正好(教務課長)

環境保全委員会 ◎松永 春洋(教授)
田中 千秋(教授) 池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授) 玄番 宗一(教授)
稲森 善彦(教授) 森本 武司(事務局次長)
施設課長

西 除 川



保 坂 康 弘

大阪薬科大学へ通学、通勤する殆どの人が、毎日出会るのが西除川である。見る、そして西除川に架かる新西除橋を渡る。

現在の橋は3代目のもので最初の橋は昭和7年、当地に本学が移転したときに大学が通学路として建設したものである（昭和26年村道移管）（大阪薬科大学80年史より）。

半年程前に狭山市南端にある近畿大学医学部に用事があって訪ねた折、医学部の近くに川を見かけた。橋の袂に西除川と書いてあったので、これがあの西除川の上流なのかと改めて地図を見た。西除川は、大和川に合流するが、大阪薬科大学の近くから逆に辿って行くと狭山池に至る、そこから南へ源流を辿ると金剛、葛城山系へ入っていく。日本書紀に『崇神天皇（5世紀頃）の時期に狭山池が灌漑池として造られた』とあるが（6、7世紀説もある）、西除川を利用してしかも東除川との分岐点に治水を兼ねて灌漑池を造ったのだと理解できた。大雨のあと、西除川に泳ぐ鯉を通勤途上でよくみかけるが、これも狭山池あたりから流れてきたものかと想像したものだ。ともあれ、日本の古代文明は、稲作農業の上に発達したもので、大和朝廷、河内王朝などの古代王朝は、大和川上流や西除川などの流域である、奈良盆地や河内平野に栄えたのである。こうして、西除川べりを歩いて、狭山池までいつか行って見たいと考えるようになった。だがもともと中小河川である西除川の川岸は淀川の堤防路のように川伝いには

行けないことが分かった。民家や工場などが川べりまで迫っていたり、フェンスで遮られた南海電鉄線路が渡河していたりで、歩いていける川岸は限られていた。平成6年正月の天候に恵まれたある日、マイカーを駆って時々車から降りて川べりを歩くというやり方で狭山池を尋ねることとした。

1. 狭山池をめざして

最初に知ったことは、西除川の水量が最近少なくなった原因である。松原市市民運動場の少し上流で、西除川の河川修理工事が行なわれて小さなダムが作られ、水量が調節されているためである。このあたりに西除橋がある。この界隈（松原市岡7丁目）は車解体工場があって川べりはポンコツ車が並んでいた。この区域に限らず西除川べりが駐車場代わりに利用されているところは少なくない。ここを過ぎると西除川は、すぐに中央環状線（堺—松原市岡）の下を溝となって潜って行く。近くには27代安閑天皇を主祭神とする広國神社と鍋宮大明神旧跡（鋳物師発祥の地とする石碑あり）があった。ここはもう美原町である。国道309号線を芋池のところで右折し、暫くして高橋を渡って西除川を越え、左折して府道大阪狭山線に入る。すると川と一定の距離を保ちながら平行して走るようになった。途中余部神社に詣で、南余部と北野田の境界線の付近で川をわたった（境橋）。更に右折して西除川を再び渡って（かいしん橋）南海高野線の北野田駅を回って国道310号線を南下して狭山池に到達した。巨大な池は現在改修中であり、干上がっていた。池の周辺はフェンスで囲まれ、池岸迄に達して西除川との関係を観察するのは容易ではない。それにもう日は暮れていた。池に至るまでの川の堤防は、コンクリート護岸ブロックが続いており土手を見ることは無かった。

2. 狭山池

やむなく次の日、朝早く再度狭山池を訪れた。地図にある西除川と狭山池の接点である池の西岸に近づき、工事関係のガードマンに頼んで工事区域に入ることが出来た。川の水は、並べた鉄板で遮られて

池工事区域には入らず、そのまま下流へ放たれている。しかし工事前の状況—西除川が池に接する様にして池に流れ込み、また池から流れ出るところを窺い知ることは出来た。土手のままの昔のよすがを伝える西除川もここで初めて観察できた（写真1, 2）。



写真1 狭山池に注ぐ西除川（向うに狭山池橋が見える）昔の面影を残し、土提のままである。改修工事で狭山池は干上がり、鉄板で囲まれているため、池に注ぐ西除川の地点を見ることは不可能になっている。



写真2 狭山池から出る西除川

兩岸の間に遙かに見える建物は桃山学院大である。

池の西北端に整池した一角があり、昭和60年代に作られた記念石碑があり狭山池のいわれが書かれている。鳥居もある。池には三津屋川も合流しており、灌漑、治水用の溜池としては絶好の立地条件のように思われた。記録としてはさらに天平時代の僧行基による修理がある。

この近くに灌漑池工事で犠牲になった人々を祭った神社があるはずと期待しながら行くと、果たせるかな狭山神社があった。工事を指揮した垂仁天皇王子、入色入彦命（狭山堤神）とそれ以前からの狭山神であるスサノオノ命と狭山連（サヤマムラジ）の祖を祭神としており、工事犠牲者もあわせて祭ったものと考えられる。

3. 西除川の歴史

西除川が古代河内文明を養ったとすれば、その面影を追ってみたいくなる。この川は、かつては川幅も広く水量も豊かであった。

夕立に大水出れば布忍川はばは何丈何尺かある

秀綱

2, 3千年前は、西除川は大和川とは独立に河内湖に注いでいた。河内湖が堆積土砂で埋まり、縮少してくると大和川と合流するようになった（図1）。河内平野は、瀬戸内に面し比較的雨量が少なく、川も小さかったので、多数の灌漑用溜池が川を利用して作られてきた。豊かな農業経済を反映して河内王朝が栄え、巨大古墳が作られた。松原市内には、15代反正天皇の柴垣宮跡の同名神社が近鉄南大阪線の河内松原の南方500Mにある。また藤本製薬KK（松原駅—恵我之荘駅の間）の南方200Mに大塚山古墳（18代雄略天皇墳墓説が有力）がある。江戸時代になって、行政当局は、大和川、西除川などの洪水によって、河内、浪速地域に被害がでることに対処するため、大和川つけかえ工事を決定した。宝永年間（1704—1711）に工事が行なわれて、大和川が大阪湾に直接注ぐように変えられた。この工事により、西除川は大和川に現在の地点で合流する様になったのである。

このあたりは古代街道が走り（図2）古代王朝の交通の要衝ともなっていた。鑑真（688—763）は、難波から大津道を辿って河内国国衛（藤井寺国府）に一泊、竜田道を通して大和へ入ったと推定されている。遣唐使もこれら街道を通して難波の港へ赴いたのである。

大学の通学路である新西除橋の1代目については、冒頭に書いたが木橋であった。2代目は昭和34年に松原市により建設された。昭和32年の大雨で狭山池が増水した影響で橋が破壊されたのである。この再建には本学の当時の岡崎教授が尽力された。その後、昭和60年頃の大雨で大和川を含む南大阪一带の河川が洪水をおこしたので、南大阪線の河川改修計画が立てられた。その計画の一環として西除川の川底が掘削され、昭和63年護岸工事とともに3代目のコンクリート橋が架け換えられた。これらの事実を知っておれば、西除川と狭山池との関係は分かったであろうに、これは本原稿を仕上げる最後に先輩から御聞きした話である。

4. 結語

現在のように宅地開発が進み農地が減少すると、溜池の役割も低くなっていく。西除川の役割も同様であろう。しかし川には灌漑以外の機能もある筈だ。それにしても現在の護岸工事は、味気ないものである。洪水の被害は確かに少なくなる。しかし昔からあった川の景観と機能の多くは失われた。四季の移り変わりを感じさせ日本人の感性を豊かにしてきた川は少なくなった。子供の数も少なくなったが、川で遊ぶ子供を見掛けることは一層少なくなった。自然の中で育つことを忘れた子供が成人して、感性の乏しい大人になった時が怖い。自然を生かしながら洪水を防ぐ工夫は先人達が試みている。もう一度野に帰った西除川を見たいものだ。勿論それは馴らした川でなければならないが。とあれ60有余年、大阪薬科大学をこの地で眺めてきた西除川とは、大学が移転すれば、惜別しなければならないだろう。

(参考文献：古代史を歩く、7：毎日新聞社、昭和62年：大和川今池遺跡Ⅱ：同調査会、1980年) なお新西除橋の歴史は前同窓会長：曾根節子先生より御聞きした。謝辞謹呈

(脱稿 平成6年2月)。附記：平成6年10月現在、狭山池の改修工事は80%かた完成している。

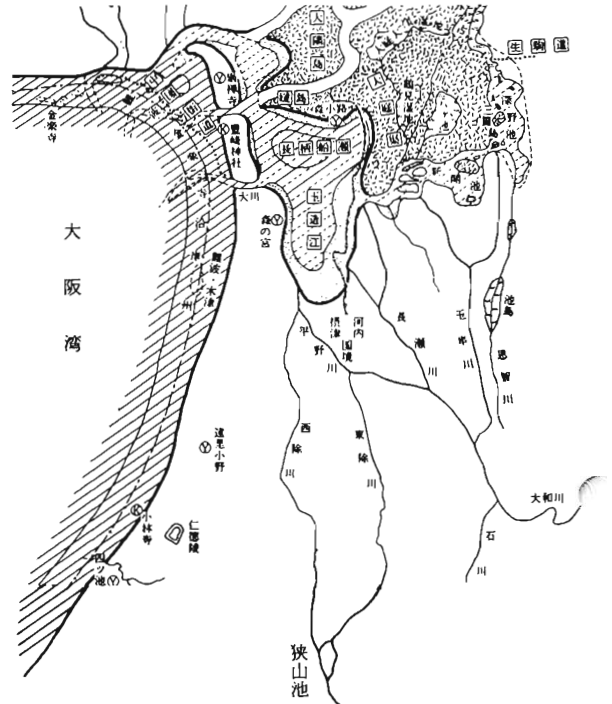


図1 河内湖Ⅱの時代(5世紀頃)
 (『統大阪平野発達史』梶山・市原, 1985年による)

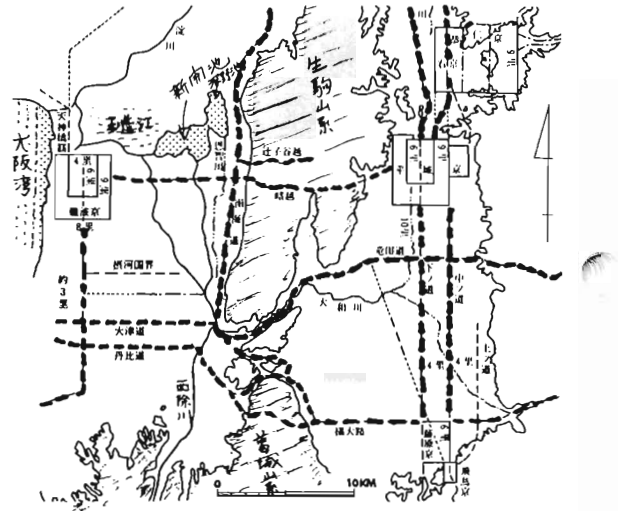


図2 古代における主要道路図(地図は近世のもの)
 〰 山地
 --- 古代国道(大和川・今池遺跡調査報告Ⅱ(一部
 改変)より)
 ~~~ 川  
 大津道が長尾街道、丹比道が竹内街道にあたる。

## 平成6年度 後期行事予定

### 平成6年

- 10月1日(土) 後期授業開始(1～3年次生)  
前期定期試験(1～3年次生)欠席届提出締切(教務課)
- 10月7日(金) 創立90周年記念式典(臨時休講)
- 10月14日(金) 後期選択科目・選択必修科目(1～3年次生)履修届提出締切(教務課)  
前期再試験(1年次生)・特別再試験(4年次生)受験者発表
- 10月15日(土) 平成7年度特別実習説明会(3年次生)
- 10月15日(土) } 前期追試験(2・3年次生)
- 10月22日(土)
- 10月22日(土) } 前期再試験(1年次生)
- 11月26日(土)
- 10月24日(月) 平成7年度特別実習配属願提出(教務課)
- 10月27日(木)
- 10月25日(火) 平成7年度(第2次)大学院修士課程入学試験
- 11月11日(金) } 第29回大薬祭等(臨時休講)
- 11月14日(月)
- 11月19日(土) 第3回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 11月21日(月)
- 11月20日(日) 平成7年度推薦入学試験(一般公募制)
- 12月1日(木) 平成7年度推薦入学試験合格者発表
- 12月3日(土) 就職ガイダンス(3年次生)
- 12月15日(木) 平成7年度特別実習配属内定(3年次生)
- 12月17日(土) 実験動物慰霊祭
- 12月20日(火) 後期授業終了(4年次生)
- 12月25日(日) } 冬季休業
- 1月7日(土)
- 平成7年
- 1月9日(月) 授業再開(1～3年次生)
- 1月9日(月) } 特別再試験(4年次生)
- 1月20日(金)

- 1月13日(金) 大学入試センター試験実施準備(臨時休講)
- 1月14日(土) 大学入試センター試験(1/14臨時休講)(一般入学試験C方式)
- 1月15日(日)
- 1月27日(金) 後期授業終了(1～3年次生)
- 1月30日(月) 後期定期試験(1～3年次生)《前半》
- 2月4日(土)
- 2月2日(木) 特別再試験(4年次生)成績発表
- 2月3日(金) } 薬学総合演習正規試験(4年次生)
- 2月4日(土)
- 2月4日(土) 一般入学試験C方式合格者発表
- 2月6日(月) 後期定期試験(1～3年次生)《前半》欠席届提出締切(教務課)
- 2月8日(水) 薬学総合演習正規試験(4年次生)成績発表
- 2月10日(金) 平成7年度一般入学試験G方式
- 2月16日(木) 平成7年度一般入学試験G方式合格者発表
- 2月16日(木) 後期定期試験(1～3年次生)《後半》
- 2月22日(水)
- 2月22日(水) 就職ガイダンス(3年次生)
- 2月23日(木) 後期定期試験(1～3年次生)《後半》欠席届提出締切(教務課)
- 2月24日(金) 後期再試験(1年次生)受験者発表
- 2月24日(金) } 薬学総合演習再試験(4年次生)
- 2月25日(土)
- 3月1日(水) 後期再試験(1年次生)・後期追試験(2・3年次生)
- 3月7日(火)
- 3月3日(金) 卒業生発表(教務課)午後1時
- 3月7日(火) 国試模擬試験(4年次生希望者)
- 3月16日(木) 進級者発表, 進級者未修得科目発表(教務課)午後1時
- 3月18日(土) 平成6年度学部卒業式
- 3月20日(月) 平成6年度大学院学位記授与式

# 葯

編集・発行

大阪薬科大学広報委員会

〒580 大阪府松原市河合2-10-65

TEL 0723 (32) 1015 (代表)

FAX 0723 (32) 9929